

座間市水道事業経営戦略 概要版

令和 3 年 3 月 座間市上下水道局

経営戦略策定の趣旨

近年の水需要は、節水機器の普及等により、平成 4 年度の 14,854 千 m³（年間総給水量）をピークに減少を続けており、給水普及率がほぼ 100%の現在、大規模な新規開発以外での増加は見込めなくなっています。

本市水道事業では、平成 26 年 9 月に「安全」、「強靱」、「持続」の観点から「座間市水道事業経営プラン」を策定するとともに、新たに中長期的な視野に立った経営の基本計画である「経営戦略」を策定しました。

「経営戦略」は、将来需要に見合った施設更新をする「投資計画」と、必要な財源を計画的かつ適切に確保する「財政計画」から成り立ちます。この「投資計画」と「財政計画」は別々に策定されるものではなく、相互に関連し、収支が均衡した形となるような計画となっています。

以上を踏まえ、「経営戦略」は、本市水道事業が将来にわたって安定的に事業を継続していくために、10 年間以上にわたる中長期的な視点で、「座間市水道事業経営プラン」を構成する計画として位置付けています。

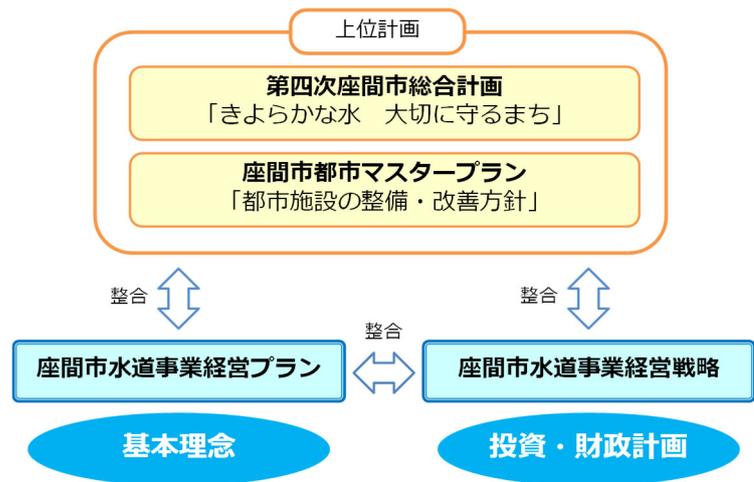


図 1 座間市水道事業経営戦略の位置付け

計画期間

経営戦略の計画期間は 10 年以上を基本とし、3～5 年ごとに成果の検証・評価を行います。座間市水道事業経営戦略の計画期間は次のとおりです。

座間市水道事業経営戦略の

目標年度 : 令和 12 年度

計画期間 : 10 年間（令和 3 年度～令和 12 年度）

事業の概要

本市水道事業は現在、計画給水人口 130,940 人、計画一日最大給水量 46,690 立方メートルの計画に基づき事業を進めており、60 年以上にわたって安全でおいしい水を供給してきました。

水道事業の経営は、平成 23 年 10 月 1 日に実施した料金改定等と各種の経営健全化の取組により、健全な状況を維持しています。そして毎年の利益は、水道施設の更新等の費用に充当しています。

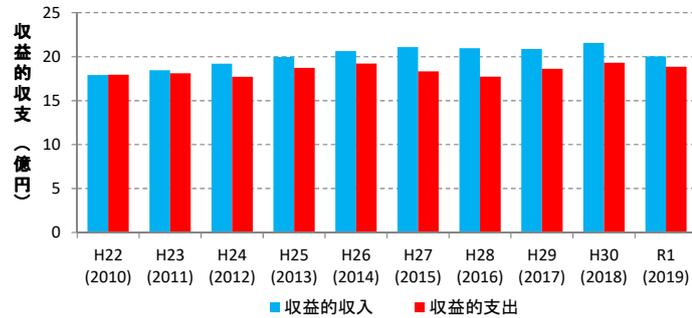


図 2 収益的収支の実績

将来の事業環境と経営課題

「座間市の人口推計」によると、本市の人口は今後、減少傾向にあり、水道水の使用の多くを支える生活用水量は、人口減少に伴い減少していくものと想定されます。この水需要の減少は料金収入の減少につながります。

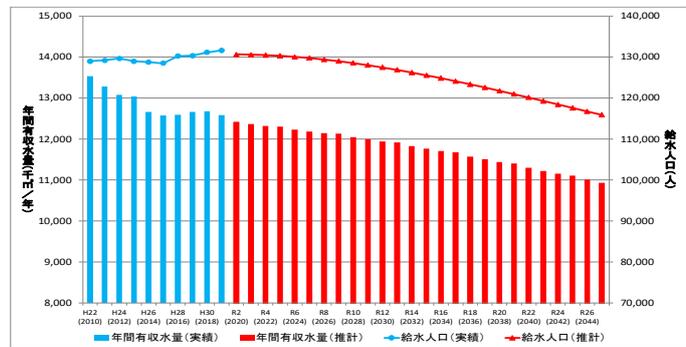
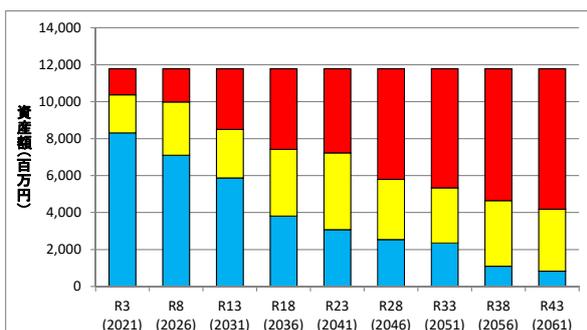


図 3 給水人口及び給水量の見通し

その一方で今後、水道施設及び管路を更新しなかった場合は図 4 となります。現在、構造物及び設備、管路のそれぞれにおいて、築年数から経過した年数が法定耐用年数以内の資産に占める割合は 70%以上となっていますが、経営戦略の計画期間である令和 12 年度には 50%程度への低下が予測されます。

老朽化する水道施設が増加していく中で、適切な補修や新技術の導入による長寿命化を図るだけでなく、今後想定される巨大地震等の自然災害において被害を最小限とするため、計画的な水道施設の更新及び耐震化と事業実施のための資金の確保が必要です。

構造物及び設備



管路

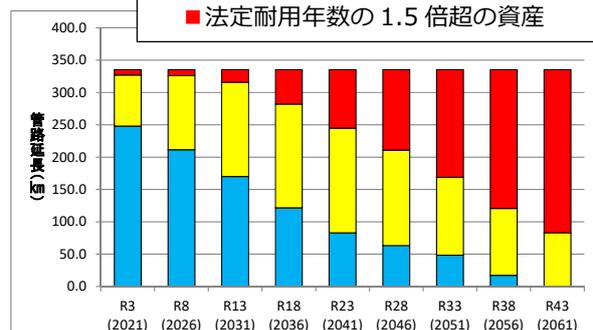


図 4 経過年数の推移

経営の基本方針

1. 基本方針

「座間市水道事業経営プラン」の基本理念「次世代へ おいしい座間の水をつなぐ」の実現に向けて、本経営戦略においては「水道サービスの持続」、すなわち「給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道」を堅持し、「投資・財政計画」の収支が均衡したものになるように経営を目指します。

2. 方向性

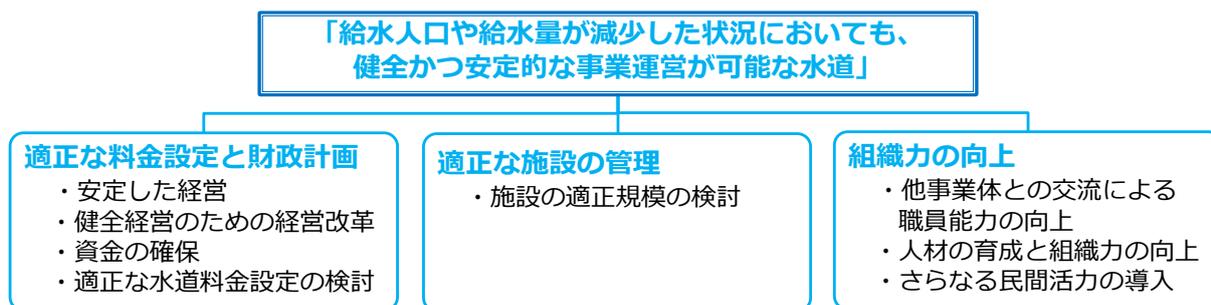


図5 経営戦略の方向性

投資・財政計画

1. 投資

計画期間である令和12年度までの10年間の主な投資内容は次のとおりです。

- **耐塩素菌対策施設設置工事**
安心・安全な水道水の供給のため、クリプトスポリジウム等の耐塩素性病原生物への対策として、第1配水場及び第2配水場に紫外線処理施設を設置します。
- **老朽管布設替工事**
有収率の向上等の効率的な施設運営を行うため、管種、布設年度を踏まえ計画的な更新を実施し、管路の老朽化の抑制及び耐震化を図ります。
- **第1配水場再編成工事**
配水施設の耐震化をはじめ、四ツ谷配水管理所を第1配水場に機能移転し、4つの水源井戸から配水場に原水を送る中継地点としての役割、遠隔監視制御及び配水管理機能を集約します。
- **基幹管路整備工事**
第1配水場再編成工事の実施に伴い、水源井戸からの直接第1配水場へ送る導水管の整備を進めていきます。
- **四ツ谷配水管理所中央監視機能増設工事**
市内の各水道施設の情報を集中的に監視制御する中央監視装置の更新及び設備を増強し、維持管理の充実に向け機能の強化を図ります。

なお、水道施設の適切な補修や新技術の導入により、水道施設及び管路の長寿命化が期待できることから、事業費の平準化を図り、計画的な更新を進めます。

表1 10年間の主な投資計画

(単位：百万円、税込)

基本方針	事業名	事業費
安全	耐塩素菌対策施設設置工事	約1,000
	第1配水場	
	第2配水場	
強靱持続	施設設備整備工事	約7,000
	老朽管布設替工事	
	第1配水場再編成工事	
	基幹管路整備工事	
	四ツ谷配水管理所中央監視機能増設工事	
合計		約8,000

2 財源対策

● 水道料金

持続可能な健全経営を引き続き維持していくためには、水道料金を見直し、給水収益の増加を見込むことで財政収支の均衡を図る必要があります。

今後、料金改定が必要と思われる経営状況となった際は、「座間市公営企業審議会」での審議を経て答申の内容を参考として、水道料金体系、料金改定率、実施時期等の基本方針を決定します。

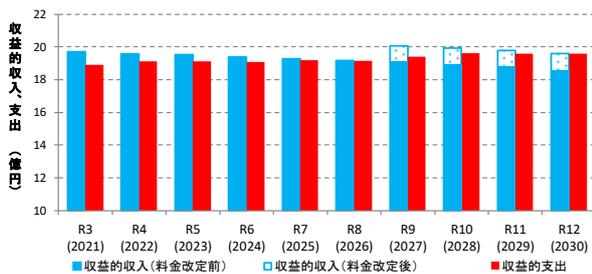
● 企業債

料金収入だけでは賅えない財源を企業債の発行により対応します。なお、後年度の財政負担を考慮し、企業債残高の低減を図るため、長期で低金利な資金等の発行条件の良い企業債の計画的な活用に努めます。

3. 投資・財政計画

計画期間内における投資・財政計画の概要は次のとおりです。

収益的収支



資本的収支

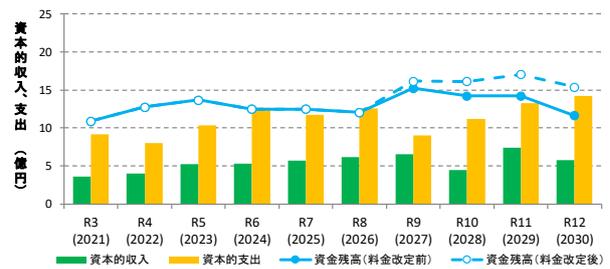


図6 投資・財政計画の概要

進捗管理

経営戦略のフォローアップについては、図7のPDCAサイクルの考え方に沿って、下記のタイミングで見直しを図ります。

- ① 経営戦略策定後の中間見直し（概ね5年後）
- ② 新たな経営戦略の策定（10年後）



図7 経営戦略のPDCAサイクル